

テーマ	交通計画
-----	------

事業分野	道路
------	----

スマート IC の本格導入

目的

既存の高速自動車国道の有効活用や、地域生活の充実、地域経済の活性化を推進するため、建設・管理コストの削減が可能なスマートインターチェンジ（ETC専用インターチェンジ）の導入に向け、地域状況に基づいた整備計画の立案、本格導入に向けた課題を整理することを目的とし調査・計画を実施します。

内容

1. 整備計画の策定

対象地域の交通特性、地域特性より地域の課題を整理し、スマートICの段階的（社会実験⇒本格運用）な整備計画を策定します。

2. 社会実験用スマートIC計画

高速自動車国道の道路構造、地域状況（土地利用、道路状況等）を踏まえ、安全性、経済性、将来計画に基づきスマートICの計画・設計を行います。

3. 社会実験に関する調査・評価

次の3つの視点から実態調査、評価を実施します。

1. スマートIC設置に起因して接続道路・交差点において渋滞等の問題が発生しないか。 ⇒ 接続道路へのスマートIC設置の影響調査

2. スマートIC設置の目的に対応した整備効果が得られるか。 ⇒ 整備効果に関する調査

3. 本格導入に向けての課題としてどのようなものがあるか。 ⇒ 構造、周辺交通への影響検証

4. 「本格導入」に向けての課題整理

本格導入に向けて調査結果の分析・評価を実施します。

（仮出入口の評価、誘発・分散交通の分析、整備効果の算定、アンケート調査分析、交通安全性の分析 等）

5. 将来形スマートICの計画

社会実験による課題、将来計画に基づき将来形のスマートICの計画・設計を行います。

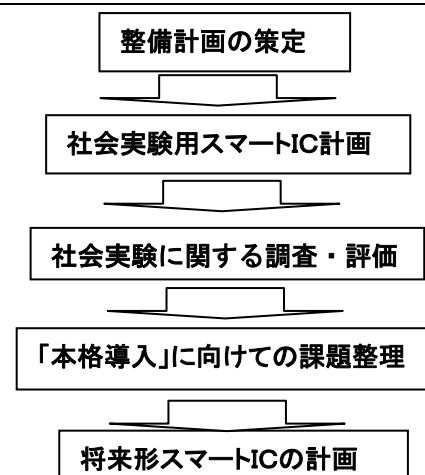


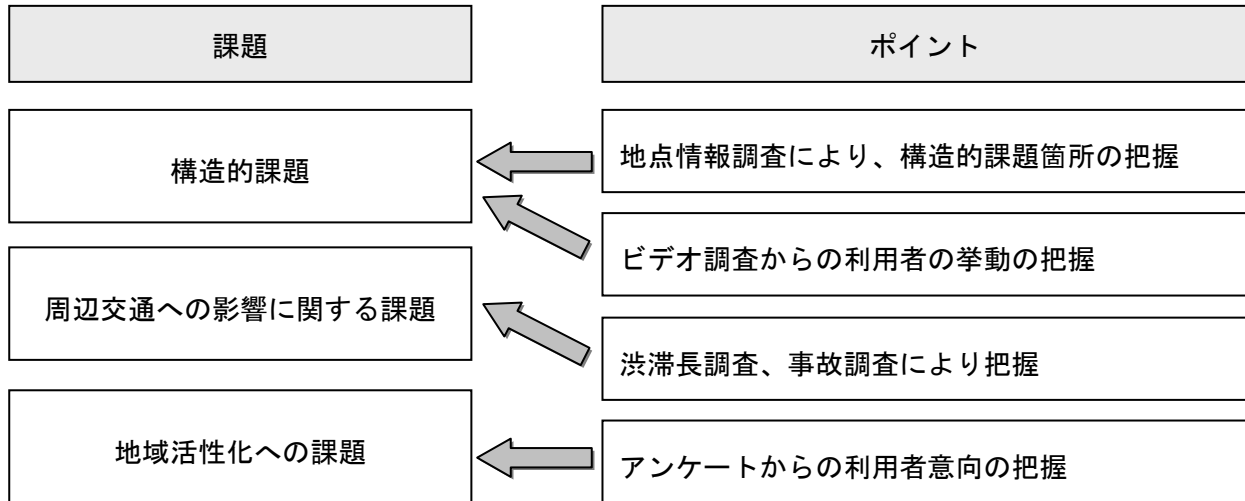
図-1 検討の進め方

日本工営株式会社

お問合せ	内容に関するご質問は、以下のページからお問い合わせ下さい。
	URL http://www.n-koei.co.jp/contact/

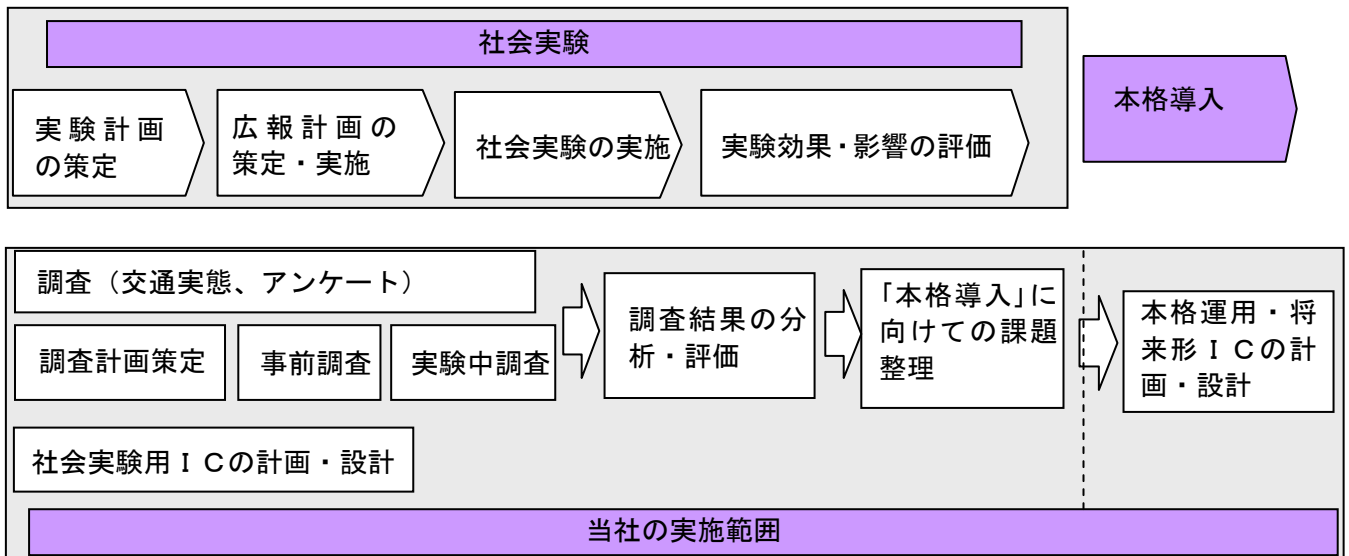
技術ポイント

スマート IC 本格導入に向けて、構造的課題、周辺交通への影響に関する課題、地域活性化への課題を整理するうえでのポイントとして、次に示す項目を挙げます。



事業の流れ[当社の実施範囲]

スマート IC の本格導入において、社会実験の流れと、当社の実施範囲を次に示します。
調査にあたっては、地域特性を踏まえた計画を策定します。（例；地域活性化を目的としたスマート IC において、観光事業者、観光目的利用者へのアンケート調査計画の策定）



当社の実績

- 国道 123 号スマート IC に関する調査・設計 茨城県（わが国初の本線直結型スマート IC）
- 富士川 SA の有効活用に関する調査 中部地方整備局 静岡国道事務所
- 遠州豊田 PA の有効活用に関する調査・設計 中部地方整備局 浜松河川国道事務所
- 九州支社管内連絡等施設予備検討 西日本高速道路株式会社 九州支社
- スマート IC 詳細設計業務委託（その 2） 茨城県